

「用語解説」注)五十音順とし、長音記号「-」や()書きは配列上無視しています。

【あ】

悪臭(あくしゅう)

悪臭は、いやな「臭い」、不快な「臭い」の総称です。

悪臭防止法では、「不快な臭いの原因となり、生活環境を損なうおそれのある物質(特定悪臭物質)」を定めるとともに、臭気指数による規制基準を定めています。

アルカリ

水に溶解してアルカリ性(水素イオン濃度(pH)が7より大きい)を示す物質の総称です。例として、水酸化ナトリウム(かせいソーダ)、炭酸ナトリウム(洗たくソーダ)、水酸化カルシウム(消石灰)等があります。

アルキル水銀(あるきるすいぎん)(R-Hg)

アルキル水銀とは、アルキル基($C_n H_{2n+1}-$)と水銀が結び付いた有機水銀化合物の総称で、メチル水銀、エチル水銀等があります。毒性が強く、腸や肺、あるいは皮膚から容易に吸収され、中枢神経障害を引き起こします。(水俣病の原因ともなっています。)

吸収されやすく排泄されにくいいため、生物の体内で濃縮されやすく、マグロ等の魚介類から高濃度のアルキル水銀が検出されるという問題も起きています。

水質、地下水、土壤に係る環境基準では「検出されないこと」とされています。

【い】

硫黄酸化物(いおうさんかぶつ)(SO_x)

硫黄の酸化物の総称で SO_x と表記されることもあります。石油等硫黄分を含んだ燃料が燃焼した際に発生し、大気汚染の原因となります。代表的な硫黄酸化物として、二酸化硫黄(SO_2)があげられます。

維管束植物(いかんそくしょくぶつ)

水や養分を運ぶ組織(維管束)をもつ植物の総称で、具体的には、シダ植物および種子植物を指します。

1時間値(いちじかんち)

大気中の汚染物質の測定において、正時(00分)から次の正時までの1時間の間に得られた測定値のことです。

1時間値の1日平均値(いちじかんちのいちにちへいきんち)

一日に測定された24時間分の1時間値の算術平均値のことです。

また、単に「日平均値」と呼ぶこともあります。

一酸化炭素(いっさんかたんそ)(CO)

炭素を含む物質の不完全燃焼により発生し、大気汚染の原因となります。主な発生源は自動車の排出ガスです。大気汚染に係る環境基準が定められています。

一酸化二窒素(いっさんかにちっそ)(N_2O)

窒素酸化物の一種で、亜酸化窒素とも呼ばれます。物質が高温燃焼する際や、農耕牧畜、下水処理等でも発生します。二酸化炭素の約310倍の温室効果を示す、温室効果ガスの一つです。

一般環境大気測定局(いっぱんかんきょうたいいきそくていきょく)

大気の大気汚染状況や気象について24時間観測を行っている測定局のうち、住宅地域等に設置された測定局のことをいいます。

【う】

【え】

営巣(えいそう)

子育てのために巣を作ることをいいます。

営巣木(えいそうぼく)

巣がある樹木のことです。

LED (エル・イー・ディー)

LEDとは、Light Emitting Diodeの略であり、発光ダイオードとも呼ばれています。LED照明器具は長寿命、低消費電力という特長があり、省エネルギーによる温室効果ガス(CO₂)の削減に有効とされています。

塩化ビニルモノマー (えんかびにるものまー)

クロロエチレンとも呼ばれ、塩化ビニル樹脂の原料です。有機溶剤中のトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等が、微生物により分解されて塩化ビニルモノマーを生成することがあるため、平成21年(2009年)に、地下水の水質汚濁に関する環境基準が設定されました。

塩酸 (えんさん)

塩化水素(HCl)の水溶液で、工業的に様々な用途に用いられる強い酸です。

堰堤 (えんてい)

一般的には、貯水・治山・砂防等の目的で、河川・渓谷を横断してつくられる堤防のことを指します。

【お】

尾根 (おね)

谷と谷に挟まれた山地の一番高い部分の連なりのことです。山稜(さんりょう)、稜線(りょうせん)とも呼ばれ、地図上では等高線の突出として示されます。

オリフィス

水槽の側壁に穴を開けたときの水の流出口のことをいいます。防災調整池では、オリフィスにより調整池から流れ出る水量の調整を行います。

音圧レベル (おんあつれべる)

音の強さを表すための量で、単位はデシベル(dB)です。

温室効果ガス (おんしつこうがす)

大気中において、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより、地表を暖める働き(温室効果)をもたらす気体の総称です。

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロン類等が例としてあげられます。

温暖化係数 (おんだんかけいすう)

個々の温室効果ガスの地球温暖化に対する効果を、二酸化炭素の効果に対して相対的に表す指標です。同一重量で比較すると、メタンは二酸化炭素の約21倍、一酸化二窒素は約310倍となります。

【か】

崖錘 (がいすい)

急斜面やがけの裾(すそ)の部分に溜まっている岩石の碎片のことです。岩盤が風化作用によって堆積したものです。

化学的酸素要求量 (かがくてきさんそようきゅうりょう)(COD)

有機物質による水質の汚濁状態を示す指標の一つです。

水中の有機物質を、酸化剤で強制的に酸化させた際に、消費される酸素量をmg/Lで表したものです。酸素要求量が大きければ、有機物が多く、汚濁が進んだ状態と考えられます。

花崗岩 (かこうがん)

マグマが冷えて固まった火成岩の一種です。風化するとマサと呼ばれます。

河床 (かしょう)

河川の底にあたる部分の総称で、川底(かわぞこ)とも呼ばれます。

火成岩 (かせいがん)

マグマが冷えて固まった岩石です。地表付近で急に冷えて固まった火山岩と、マグマが地下の深いところでゆっくり冷えて固まった深成岩に大別されます。

褐色森林土壌 (かっしょくしんりんどじょう)

山地の森林下にできる、有機物の蓄積した黒色の表層と褐色の下層からなる土壌で、性質は変化に富んでいます。

活断層（かつだんそう）

新生代第四紀後期以降（過去数十万年程度以内）に地震を起こし、今後も活動を継続すると考えられる断層のことです。

活断層では地震が過去に繰り返し発生しており、また今後も地震が発生すると考えられているため、活断層の活動度の評価は、そこを震源として発生する地震の程度を知るのに役立つと考えられています。

カドミウム（Cd）

銀白色の軟らかい金属です。有毒で、肝臓・腎臓障害のほか、イタイタイ病の原因物質として知られています。

水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

環境影響評価（かんきょうえいきょうひょうか）

環境アセスメントとも呼ばれ、地域の環境情報を調査し、開発行為がどの程度影響を与えるかの予測を行い、事業者が計画している環境保全対策の実施で、影響を回避・低減できるか検討するものです。

環境基準（かんきょうきじゅん）

環境基本法（平成5年法律第91号）第16条に基づき、政府が定める環境保全上の目標であり、人の健康の保護や生活環境の保全上、維持されることが望ましい基準として、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音等に関する環境基準が定められています。

環境騒音（かんきょうそうおん）

観測しようとする場所での、すべての騒音の程度をいいます。

間伐（かんばつ）

植林した林が成長して、木が混み合った状態になった時に、木々の一部を間引くために行う伐採のことです。

含有量試験（がんゆうりょうしけん）

分析対象物に含まれる物質の量を分析する試験です。

【き】

規定度（きていど）（N）

溶液の濃度を表す単位の一つで、記号Nを用います。溶液1 L中に1グラム当量の溶質を含むとき、その溶液の濃度を1規定（1 N）といいます。

具体的には、1N-塩酸とは、1 L中に約36.5gの塩化水素(HCl)を含む、希塩酸です。

同様に0.1N-NaOHは、1 L中に約4gのNaOH(水酸化ナトリウム)を含む、NaOHの水溶液です。

揮発性有機化合物（きはつせいゆうきかごうぶつ）（VOC）

常温常圧で空気中に容易に揮発する有機性物質の総称で、英語表記の頭文字をとってVOCと略されます。

洗浄剤等として大量に使用されており、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等が例としてあげられます。

キャッピング

埋立終了後に、埋立地の地表を遮水性又は難透水性を有する材料で覆い、雨水を地表水として埋立地外へ排水し、浸出水の発生量を抑制することです。

凝灰岩（ぎょうかいがん）

火山から噴出した火山灰が地上や水底に堆積してできた岩石のことです。成分は火山由来ですが、生成条件から堆積岩に分類されます。

凝集沈降方式（ぎょうしゅうちんこうほうしき）

自然沈降だけでは分離・沈殿が困難な、1 μm程度以下の水中の固形物粒子に、凝集剤と呼ばれる薬剤を添加して、大きな塊にして沈降させる、濁水の処理方式の一つです。

寄与濃度（きよのうど）

発生源から排出された汚染物質が、予測地点においてどのくらいの影響を与えているかを示した濃度のことです。予測濃度は、この寄与濃度に現状の濃度（バックグラウンド濃度）を加えて算出します。

距離減衰式(きょりげんすいしき)

音や振動のエネルギーの強さは、発生源から離れるに従って減少することから、発生源からの距離と、エネルギーの減少度合との関係を示す式のことです。

エネルギーの強さ、地表面の状況等により異なります。

キレート剤(きれーとざい)

重金属と強固に結合して、水に溶け出さないようにする薬剤の一種です。

菌類(きんるい)

一般に、キノコ・カビ・酵母と呼ばれる生物の総称です。

【く】

グラム当量(ぐらむとうりょう)

化学反応における質量的な比例関係を表すもので、酸やアルカリでは、(分子量/価数)で示されます。酸やアルカリの種類にかかわらず、1グラム当量の酸を中和するのに必要なアルカリの量は1グラム当量となります。

黒雲母(くろうんも)

雲母と呼ばれる鉱物の一種で、黒色をしています。雲母は、紙の束のように薄く一方向にはがれる性質を持っています。花崗岩等に普通に含まれ、黒い斑点を形成しています。

群度(ぐんど)

植物群落調査において、調査対象植物種がどのような状態で群落をつくっているか、あるいは単独で存在するか、等を示すものです。

群落(ぐんらく)

正式には植物群落といいます。何種類かの植物がまとまってつくる、植物の集団のことを指しています。

【け】

健康項目(けんこうこうもく)

水質汚濁に係る環境基準で、人の健康を保護するうえで維持することが望ましい基準として設定された項目をいいます。人の健康を保護するために、カドミウム、全シアン、有機燐、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB等の27項目について基準値が設定されています。

建設副産物(けんせつぶくさんぶつ)

建設現場に持ち込んで加工した資材の残りや、現場内で発生した物の中で、現場内では使用の見込みがない物で、本件では残土、伐採木等がこれにあたります。

建設作業騒音・振動(けんせつさぎょうそうおん・しんどう)

建設工事に伴って発生する騒音や振動をいいます。

【こ】

光化学オキシダント(こうかがくおキシだんと)(OX)

工場や自動車からの排ガスに含まれている窒素酸化物や、炭化水素類が日光の中の紫外線を受けて光化学反応を起こし、生成される酸化性物質の総称です。

大気汚染に係る環境基準が定められています。

夏期の風が弱く日差しの強い日に、高濃度となる傾向があります。粘膜を刺激する性質を持ち、目やのどの痛み、植物を枯らす等の被害を及ぼします。

コドラート法(こどらーとほう)

植物の調査で用いられる手法の一つで、地域、区画の植生の特徴が最もよく出ていると思われる場所に正方形の枠(コドラート)を設置して、その内側の調査を行う方法のことです。

枠の大きさは、調査対象の植生状況・地形等を考慮して設定します。

コンパクター

ランドフィルコンパクターともいいます。鉄製の車輪を装着した、大型のブルドーザーに似た機械で、廃棄物の破碎・減容・転圧の目的で、埋立地内で使用されます。

【さ】

在来種(ざいらいしゅ)

ある地域に現在生育する植物のうちで、昔からあった種類のことをいいます。(外来種の対義語です。)

砂岩(さがん)

主に砂が海底や湖底、または地表に堆積してできた岩石のことです。堆積岩でもっとも一般的なものの一つです。

酸(さん)

水に溶解して酸性(水素イオン濃度(pH)が7より小さい)を示す物質の総称です。例として塩酸、硫酸、酢酸等があります。

残土(ざんど)

公共工事や民間の建設工事に伴って発生する土砂類のことをいいます。

【し】

四塩化炭素(しえんかたんそ)

テトラクロロメタンとも呼ばれる、常温で無色透明の水より重い液体で、かつてはもっともよく用いられた有機溶剤の一つです。

毒性が強いため、使用が廃止され、現在では分析用試薬としてのみ流通しています。水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

1,4-ジオキサン

常温で無色透明の水に溶けやすい、可燃性の液体で、有機溶剤として広く用いられています。水質、地下水に係る環境基準が定められています。

1,2-ジクロロエタン

塩化エチレンとも呼ばれる、常温で無色透明の水より重い液体で、塩化ビニルモノマーの製造原料や、溶剤、洗浄剤として使われています。

水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

1,1-ジクロロエチレン

塩化ビニリデンとも呼ばれる、常温で無色透明の揮発性液体で、食品用ラップ等に使用される塩化ビニリデン樹脂の原料です。

水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

シス-1,2-ジクロロエチレン

常温で無色透明の水より重い液体で、引火性、可燃性があります。

溶剤、香料、ラッカー等に用いられます。

水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

ジクロロメタン

塩化メチレンとも呼ばれる、常温で無色透明の水より重い液体で、溶剤等に使用されています。

大気、水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

1,3-ジクロロプロペン

常温で淡黄色の水より重い液体で、揮発性が高く可燃性です。

土壤消毒用の燻蒸剤等として使用されます。

水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

事後調査(じごちょうさ)

環境影響評価等で、選定項目に係る予測の不確実性が大きい場合、効果にかかる知見が不十分な環境保全措置を講ずる場合等において、環境への影響の重大性に応じ、工事中及び供用後の環境の状態等を把握するために行う調査です。

シダ植物(しだしょくぶつ)

維管束植物のうち、種子を形成せずに孢子によって増殖する植物の総称です。代表的なシダ植物としては、ワラビ、ゼンマイ等があります。

自動車排出ガス測定局(じどうしゃはいしゅつがすそくていきょく)

大気の汚染状況や気象について24時間観測を行っている測定局のうち、自動車排出ガスの影響を強く受ける道路沿道に設置した測定局のことをいいます。

自動車騒音（じどうしゃそうおん）

自動車の運行に伴い発生する騒音のことをいいます。道路交通騒音とも呼ばれます。騒音の主な要因は、エンジン本体音、冷却ファンの音、吸気音、排気音、タイヤ音等です。

地盤卓越振動数（じばんたくえつしんどうすう）

自動車が走行する際に発生する振動の大きさに影響を与える要因の一つで、地盤の固さの指標になり、値が低いほどその地盤は軟らかく、高いほどその地盤は硬いとされます。

シマジン

水に溶けにくい白色の結晶性粉末で、畑地、ゴルフ場等の除草剤として使用されています。水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

臭気指数（しゅうきしすう）

悪臭防止法により定義されており、臭気を感じしなくなるまで希釈した場合の希釈倍数の対数を10倍した値です。

臭気濃度（しゅうきのうど）

臭いのある気体を、無臭の空気希釈し、臭いが感じられなくなった希釈倍数のことです。臭気濃度の対数を10倍した「臭気指数」をもとに悪臭の規制を行っています。

種子植物（しゅししょくぶつ）

維管束植物のうち、主に種子によって繁殖する植物の総称です。

上位性（じょういせい）

ある地域の生態系の上位に位置するという性質のことをいいます。

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素（しょうさんせいちっそおよびあしょうさんせいちっそ）

水中に含まれる窒素成分のうち、亜硝酸イオン（ NO_2^- ）と硝酸イオン（ NO_3^- ）として存在している窒素の量の合計です。肥料や家畜の排せつ物による汚染の程度を示す、指標の一つとなります。水質、地下水に係る環境基準が定められています。

常緑広葉樹（じょうりょくこうようじゅ）

クスノキ・ツバキ・シイ等、一年中緑の葉をつける、広い葉をもつ樹木のことです。

植生（しょくせい）

ある場所に生育する植物のまとまりのことをいいます。具体的には同じ植物のまとまりをさす場合、植物群落あるいは群落といえます。

植生自然度（しょくせいしぜんど）

植物の生育状況の違いによって、日本の植生を10の類型に区分したものです。市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区を「自然度1」とし、植生の自然度が高くなるにつれて、数字が大きくなります。

植被率（しょくひりつ）

植物が生えて地面を覆っている割合のことをいいます。

植物相（しょくぶつそう）

ある地域に生育している植物の種類組成のことをいいます。

食物連鎖（しょくもつれんさ）

生物群集において、食う者（捕食者）と食われる者（被食者）の関係が一連のつながりを持った状態のことをいいます。

浸出水（しんしゅつすい）

埋立地内の廃棄物に触れ、外部に排出される水のことです。

振動レベル（しんどうれべる）

振動を評価する尺度の一つで、装置で測定した振動の強さを、人間の感覚に合うように補正した量のことをいいます。単位はdB（デシベル）です。

振動レベルの80%レンジの上端値（ L_{10} ）（しんどうれべるの80%れんじのじょうたんち）

測定した振動レベルを下から順番に並べ、上下10%ずつを除いた高いほうの値です。振動レベルが不規則かつ大幅に変動する振動の場合、振動規制法ではその振動の大きさは、 L_{10} で定めることになっており、道路交通の要請限度でも採用されています。

針葉樹（しんようじゅ）

マツ・スギ・ヒノキ等、針のように細長い葉をつける樹木のことです。

【す】

水酸化ナトリウム(すいさんかなとりうむ)(NaOH)

かせいソーダとも呼ばれる代表的なアルカリ性物質で、工業用に広く用いられています。

水質汚濁に係る環境基準(すいしつおだくにかかるかんきょうきじゅん)

水質の汚濁に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準(環境基準)として定めたものです。

人の健康の保護に関する環境基準(健康項目)と、生活環境の保全に関する環境基準(生活環境項目)が定められています。

水素イオン濃度(すいそいおんのうど)(pH)

水溶液の酸性、アルカリ性の度合いを表す指標で、ペーハー又はピーエイチと読みます。

pHが7のときに中性、7未満では酸性、7を超えるとアルカリ性を示します。

水象(すいしょう)

環境中での水の状態のことであり、具体的には河川や湖沼、地下水等の水に関わる諸現象を指します。

ストンガード

落石防護柵の一種で、ワイヤロープの伸びや金網の変形によって、落石の衝撃を吸収します。

【せ】

静穏(せいおん), calm

風速が0.4m/秒以下の風の状態をいい、calmと表すこともあります。風がこのような静穏状態になると汚染物質は拡散せず滞留しやすくなります。

生活環境項目(せいかつかんきょうこうもく)

水質汚濁に係る環境基準で、生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準として設定された項目をいいます。河川、湖沼、海域の各公共用水域について、利用目的に応じて設けられた水域類型ごとに設定されます。

河川(湖沼を除く)では、水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)、溶存酸素量(DO)、大腸菌群数の5項目について、水域類型ごとに基準が設定されています。

生態系(せいたいけい)

生物と取り巻くそれ以外の環境が相互に関係しあって、生命の循環をつくりだしているシステムを、生態系と呼びます。

生物化学的酸素要求量(せいぶつかがくてきさんそようきゅうりょう)(BOD)

有機物質による水質の汚濁状態を示す指標の一つです。

水中の有機物質等が生物によって分解される際に、消費される酸素量をmg/Lで表したもので、酸素要求量が大きければ、有機物質が多く、汚濁が進んだ状態と考えられます。

石灰岩(せっかいがん)

古代のサンゴや貝類等の生物の殻が水底に堆積して出来た堆積岩の一種です。セメントの原料等に、大量に用いられています。

節理(せつり)

岩盤に見られる規則性のある割れ目のうち、両側にずれの見られないものをいいます。花崗岩等の火成岩では、冷えて固まる際に体積が収縮し割れ目ができることがあります。

セル方式(せるほうしき)

埋立てた廃棄物を法面も含めて一日ごとに覆土し、一塊(セル状)に仕上げる埋立工法のことです。

セレン(Se)

セレンは地球上に微量ながら広く存在する元素で、コピー機の感光ドラムや、半導体等に利用されています。

水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

遷移(せんい)

ある種の植物群落が、環境条件の変化等により、別の群落に移り変わることをいいます。

扇状地(せんじょうち)

河川が山地から平野や盆地に移る所等に多く見られる、土砂等が山側を頂点として扇状に堆積した地形のことをいいます。

蘚苔類(せんたいるい)

一般にコケと呼ばれている植物の総称です。スギゴケやゼニゴケがこれに該当します。

全シアン(ぜんしあん)(T-CN)

水中のシアン(CN)は、シアンイオン(CN⁻)、シアン化水素(HCN)、金属のシアン化物等の形で存在し、メッキ工場等の排水に含まれていることがあります。

シアン化合物は一般に毒性が強く、微量でも魚介類等水生生物に障害を与えます。

問題になるのは急性毒性のみで、重金属類のように体内に蓄積して慢性中毒を引き起こすことはありません。

水質、地下水、土壤に係る環境基準では「検出されないこと」とされています。

【そ】

騒音に係る環境基準(そうおんにかかるとんきょうきじゅん)

騒音に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準(環境基準)を定めたものです。

地域の類型及び時間の区分ごとに定められており、都道府県知事が類型を当てはめる地域の指定を行うことになっています。

騒音レベル(そうおんレベル)

騒音計で測定された測定値のことで、単位はデシベル(dB)です。

総水銀(そうすいぎん)(T-Hg)

水銀は無機水銀と有機水銀に分けられ、無機水銀には金属水銀と1価または2価の水銀化合物が、有機水銀にはメチル水銀を始めとするアルキル水銀と、フェニル水銀ほかのアリール水銀等があります。水銀は有害な物質で、急性的にも慢性的にも中毒が起ります。これらの水銀を一括して、総水銀といいます。

水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

藻類(そうるい)

光合成で酸素を発生する生物から、主に地上に生息する蘚苔類、シダ植物、種子植物を除いたものの総称です。

【た】

ダイオキシン類(だいおきしんるい)

ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)、コプラナーポリ塩化ビフェニル(コプラナーPCB)をまとめてダイオキシン類といいます。大気、水質、土壤に係る環境基準が定められています。

大気汚染に係る環境基準(たいきおせんにかかるとんきょうきじゅん)

大気汚染に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準(環境基準)を定めたものです。短縮して「大気環境基準」と呼ぶこともあります。

二酸化硫黄(SO₂)、一酸化炭素(CO)、浮遊粒子状物質(SPM)等10項目について、基準が設定されています。

堆積岩(たいせきがん)

砂や泥、生物の遺骸等が、海底や湖底等の水底や地表に堆積してできた岩石のことで、地層となって現れることが多く、化石を含むこともあります。

代表的な堆積岩として、泥岩、砂岩、石灰岩等があげられます。

大腸菌(だいちょうきん)

大腸菌は、人及び動物の腸管内に常在する一群の細菌です。大腸菌は本来、有害なものではありませんが、大腸菌が検出される場合、その水のし尿汚染の可能性が考えられます。

大腸菌群数(だいちょうきんぐんすう)

大腸菌群数は、大腸菌及び、大腸菌と性質が似ている細菌の数のことをいい、水中の大腸菌群数は、し尿汚染の指標として使われています。

濁度(だくど)

水の濁りの程度を表す指標です。

炭化水素(たんかすいそ)

炭素と水素からなる化合物の総称です。塗料や溶剤のほか、自動車の排ガスの中にも含まれています。

弾性波探査(だんせいहतんさ)

火薬の爆発、ハンマーの打撃等の方法で人工的に小地震を発生させ、地中を伝わる波動の速度を測定して、地層の状況を把握する調査方法です。また、地中を伝わる波動の速度を弾性波速度といいます。

断層(だんそう)

地下の地層もしくは岩盤に力が加わって割れ、割れた面に沿ってずれ動いて食い違いが生じた状態をいいます。

ダンピング

ダンプトラック等の荷台を傾けて、土砂や廃棄物等の積荷を一気に下ろすことです。

【ち】

地衣類(ちいらい)

岩石や樹上に生育する藻類と菌類との共生体の総称です。食用のイワタケはこれに該当します。

チウラム

種子消毒、茎葉散布、土壌処理用の農薬として、ゴルフ場等で使用されています。水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

チオベンカルブ

水田、畑地の除草剤として使用されています。水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

地下水の水質汚濁に係る環境基準(ちかすいのすいしつおだくにかかるかんきょうきじゆん)

水質汚濁に係る環境上の条件のうち、地下水の水質汚濁に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準(環境基準)を定めたものです。

人為的要因による水質悪化防止を目的としており、カドミウム、全シアン、有機燐、鉛、六価クロム等の28項目について基準が設定されています。

窒素酸化物(ちっそさんかぶつ)(NOx)

空気中で石油や石炭等を燃焼させる際に発生する窒素の酸化物の総称で、NOxと表記されることもあります。主なものとして一酸化二窒素(N₂O)、一酸化窒素(NO)と二酸化窒素(NO₂)があります。

発生源はボイラー等の固定発生源と、自動車等の移動発生源に分けられ、呼吸器系等人の健康に影響を与える物質として環境基準が定められています。

眺望景観(ちょうぼうけいかん)

ある視点場(景観を見る地点、展望台等)から視対象(眺められる対象物、山や海等)を眺望したとき視覚で捉えられる景観のことをいいます。

【つ】

【て】

泥岩(でいがん)

泥や粘土が水底に堆積してできた岩石のことです。砂岩とともに、堆積岩でもっとも一般的なものの一つです。

低公害車(ていこうがいしゃ)

大気汚染物質(窒素酸化物や一酸化炭素、二酸化炭素等)の排出が少なく、環境への負荷が少ない自動車のことです。

底質(ていしつ)

河川、湖沼、海域等の水底を構成する粘土、シルト、砂、礫等の堆積物や岩のことをいいます。

定性的予測(ていせいてきよそく)

環境への影響の程度を数値化することが困難な場合に、影響の質的な側面から予測する方法です。

定点観察調査(ていてんかんさつちょうさ)

眺望の良い場所から周辺を観察し、生物の個体数や行動を調査する方法です。

低排出ガス車(ていはいしゅつがすしゃ)

排出ガス中に含まれる有害物質の量を、基準よりも低減させた自動車で、国土交通省が「低排出ガス車認定制度」で認定した自動車のことです。

定量下限値(ていりょうかげんち)

分析対象物の量を正確に求めることができる、最低濃度のことです。分析対象物の状態や共存する物質、分析方法ごとに、定量下限値は異なります。

定量的予測(ていりょうてきよそく)

環境への影響の程度を、理論に基づく計算、モデルによる実験、事例の引用又は解析その他の手法により、数値化して予測する手法です。

テトラクロロエチレン

パークレンとも呼ばれます。揮発性があり、不燃性で、水に溶けにくいことから、ドライクリーニング、金属の脱脂洗浄剤、溶剤等に広く使用されています。

大気、水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

典型性(てんけいせい)

ある地域の生態系の特徴を典型的に現す性質のことをいいます。

【と】

等価騒音レベル(とうかそうおんれべる)(L_{aeq})

騒音レベルが時間と共に変化する場合に、一定時間内で平均して、何dBの連続した一定レベルの騒音に相当するかを示したものです。

透水係数(とうすいけいすう)

土中の水の流れやすさを示す係数です。一般に砂質土では透水係数は大きく、粘性土ではきわめて小さくなります。

道路交通振動(どうろこうつうしんどう)

自動車が道路を通行することに伴い発生する振動のことをいいます。

道路交通騒音(どうろこうつうそうおん)

自動車が道路を通行することに伴い発生する騒音のことをいいます。

特殊性(とくしゅせい)

生態系では、その地域が特殊な環境であることを特徴づける性質のことをいいます。

毒性等量(どくせいとうりょう)(TEQ)

ダイオキシン類は、分子中の塩素の数及び位置が異なる異性体の混合物で、毒性の強さは異性体によって異なることから、各異性体の量にそれぞれの毒性の強さの係数(TEF)を乗じた値の総和として、全体の毒性を表わしたものです。

特定建設作業(とくていけんせつさぎょう)

騒音規制法及び振動規制法で指定された、著しい騒音や振動を発生する建設作業のことです。

騒音規制法では、くい打ち機や削岩機等を使用する作業等の8種類の作業が、振動規制法では、くい打ち機、ブレーカーを使用する作業等の4種類の作業が指定されています。

特定建設作業を含む建設工事を実施する場合には事前に届出をする等の規制があります。

土壌の汚染に係る環境基準（どじょうのおせんにかかるかんきょうきじゅん）

土壌の汚染に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準（環境基準）を定めたものです。

汚染された土壌から地下水等への溶出の観点から26項目、農作物（米）に対する影響及び農作物（米）に蓄積して人の健康に対する影響の観点から3項目の計27項目（うち、2項目は溶出と農作物への影響等の両方の観点から2つの基準が定められている）について基準が設定されています。

ドラミング

キジやヤマドリが翼を地面に打ちつけて出す太鼓のような音や、キツツキ類がくちばしで樹木を激しくつついて、造巣や採餌のための穴を掘る際に出るリズムカルな音のことをいいます。

1, 1, 1-トリクロロエタン

メチルクロロホルムとも呼ばれ、金属洗浄剤や溶剤として用いられています。水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

1, 1, 2-トリクロロエタン

三塩化ビニルとも呼ばれ、溶剤や、粘着剤、ラッカー、等に利用されています。水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

トリクロロエチレン

トリクレンとも呼ばれ、金属機械部品の脱油脂洗浄剤として使用されています。大気、水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

【な】

夏鳥（なつどり）

渡り鳥のうち、春から初夏にかけて南方から渡来して繁殖し、秋に再び南方へ渡る鳥類のことをいいます。例としてツバメ・ホトトギス・カッコウ等があげられます。

ng（ナノグラム）

ナノは単位の一つで10億分の1を示し、1ngは10億分の1グラムです。

鉛（なまり）（Pb）

蒼白色の柔らかい金属で、鉛蓄電池の極板、はんだ等に使用されています。水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

【に】

二酸化硫黄（にさんかいおう）（SO₂）

石油等硫黄分を含んだ燃料が燃焼した際に発生する、無色で刺激臭のある気体です。主要な大気汚染物質の一つで、呼吸器を刺激してぜんそくや気管支炎を引き起こします。

また、二酸化窒素と共に酸性雨の原因物質になります。大気汚染に係る環境基準が定められています。

二酸化炭素（にさんかたんそ）（CO₂）

炭素を含む物質の燃焼や、生物の呼吸作用により発生する、常温常圧では無色、無臭の気体です。代表的な温室効果ガスであり、産業革命以降、化石燃料の使用や吸収源である森林の減少等によって、大気中の濃度が増加しており、地球温暖化が進行する最大の原因物質とされています。

二酸化窒素（にさんかちっそ）（NO₂）

窒素酸化物の一つで、主な発生源としてはボイラー等の固定発生源や自動車等の移動発生源があります。

主要な大気汚染物質の一つで、呼吸器系等への影響が指摘されています。また、二酸化硫黄と共に酸性雨の原因物質になります。大気汚染に係る環境基準が定められています。

日平均値の年間98%値（にちへいきんちのねんかん98%ち）

環境基準による二酸化窒素等の評価を判断する際に、年間にわたる1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの（365日分の測定値がある場合、高い値から順に並べて、高い方から8番目の測定値）で評価を行っています。

日平均値の年間2%除外値(にちへいきんちのねんかん2%じょがいち)

環境基準による浮遊粒子状物質(SPM)等の評価を判断する際に、年間にわたる長期的評価の方法として、年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値の高い方から2%範囲内にあるもの(365日分の測定値がある場合、高い値から順番に並べて、高い方から7番目までの測定値)を除外して評価を行っています。

日本工業規格(にほんこうぎょうきかく)(JIS)

工業標準化法に基づき制定される工業標準で、日本の国家標準の一つです。JIS(ジス)またはJIS規格(ジスキかく)と通称されています。

任意観察調査(にんいかんさつちょうさ)

ルートセンサスや定点観察調査を補完する目的で、調査対象地域を任意に歩きながら、観察・調査する方法です。

【ぬ】

【ね】

年平均値(ねんへいきんち)

大気観測等

測定値の1時間値をもとに解析・集計した結果を、集計値といい、1日単位の集計値を日間値、1か月単位の集計値を月間値、1か年単位の集計値を年間値といいます。年間値のうち、平均を集計したものを年平均値といいます。

水質等

測定回ごとの測定値(個別測定値)をもとに解析・集計した結果を、集計値といい、1日単位の集計値を日間値、1か月単位の集計値を月間値、1か年単位の集計値を年間値といいます。年間値のうち、平均を集計した値を年平均値といいます。

年平均濃度(ねんへいきんのうど)

単位が濃度で表されるものについて、年平均値と同様の意味で使われます。

【の】

法尻(のりじり)

切土や盛土により作られる人工斜面の最下端のことです。

法留擁壁(のりどめようへき)

切土や盛土の斜面が崩壊しないよう設置する、壁のような構造物のことです。

法面(のりめん)

切土や盛土により作られる人工の斜面のことです。

n-ヘキサン抽出物質(のるまるへきさんちゅうしゅつぶつ)

n-ヘキサンという有機溶媒によって環境水の中から抽出される不揮発性の物質の総称で、水中の油分の指標の一つです。具体的には水中に含まれる動植物油脂、脂肪酸、グリース、石油系炭化水素等があげられます。

【は】

バイオマス

再生可能な、生物由来の有機性資源(化石燃料は除く)のことです。

ハイボリウムエア・サンブラ

大気中の粉じんを吸引して、ろ紙で捕集するために用いる装置です。

バックグラウンド濃度(ばっくぐらうんど)

一般的には、人為的な活動が全く無い場合の環境中の化学物質濃度のことをいいます。また、当事業で整備する施設による影響を比較する場合において、当該事業が行なわれる前の状態を指すため、既に稼動している工場等の人為的な影響が含まれた濃度を示します。

バックホウ

油圧ショベルのうち、ショベル(バケット)が下(後ろ)向きに取り付けられた、ごく普通に見られる建設機械です。地表面より低い場所の掘削に適しています。

バットディテクタ

コウモリ類の出す音声(超音波)を人の耳で聞こえる可聴音に変換し、夜間に活動が活発になるコウモリの生息状況を調べるための装置です。

パフモデル

大気汚染の拡散モデルの一つです。

煙源から瞬間的に排出された大気汚染物質の塊をパフといい、時間とともに移送・拡散の状況を予測するモデルです。

【ひ】

pg (ピコグラム)

ピコは単位の一つで1兆分の1を示し、1Pgは1兆分の1グラムです。

微小粒子状物質 (びしょうりゅうしじょうぶっしつ) (PM2.5)

大気中に浮遊する物質のうち、粒径 $2.5\mu\text{m}$ 以下の小さなものをいいます。

粒径がより小さいことから、肺の奥深くまで入りやすく健康への影響も大きいと考えられています。大気汚染に係る環境基準が定められています。

砒素 (ひそ) (As)

殺鼠剤、木材の防腐、防蟻剤等に用いられるほか、半導体の原料にもなります。

毒性が高く、水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

被度 (ひど)

植物群落調査において、調査対象植物種が地表面を覆っている度合いのことをいいます。

ppm (ピーピーエム)

Part(s) per million の略で、百万分率を表します。1ppmは、百万分の1です。

非メタン炭化水素 (ひめたんたんかすいそ)

全炭化水素からメタンのみを除外した、光化学反応の活性の高い炭化水素類を一括して非メタン炭化水素といいます。

【ふ】

風化 (ふうか)

地表付近の岩盤が風雨や日光、水の凍結等で細かく砕かれ、やがて土砂や粘土に変化していく働きのことです。

フォトモンタージュ

主要な眺望点等から撮影した写真上に、施設等の完成予想図を合成して景観を予測する手法です。現況の景観写真に新たに出現する施設のイメージを合成するため、将来の景観変化の状況を把握することができます。

付着藻類 (ふちやくそうい)

川や湖の底にある石等に付着して生育する藻類の総称です。川の石の上に付着している、一見コケのように見えるもののことです。アユ等のえさになります。

ふっ素 (ふっそ) (F)

自然界にはふっ素単体としては存在せず、他の元素と結合して広く存在します。

温泉水や火山地帯の地下水にはかなり高濃度のふっ素が含まれていることがあります。

テフロン樹脂や冷媒、防腐剤、殺虫剤等の製造原料となるほか、アルミニウムの製造工程で大量に使用されています。

水質、地下水、土壌に係る環境基準が定められています。

浮遊物質 (ふゆうぶっしつ) (SS)

浮遊物質は、水に溶けない物質のうち、直径 2mm 以下のものを示します。粘土鉱物に由来する微粒子や動植物プランクトン、有機物や金属の沈殿等が含まれ、水質の指標として用いられています。

浮遊粒子状物質 (ふゆうりゅうしじょうぶっしつ) (SPM)

大気中に浮遊する粒子状物質で粒径が $10\mu\text{m}$ 以下のものです。気管に入りやすく、呼吸器系等、人の健康に影響を与える物質として、大気汚染に係る環境基準が定められています。

冬鳥 (ふゆどり)

秋に北方から飛来して越冬し、春に北方へ帰って繁殖する鳥類のことをいいます。例として、ハクチョウ・カモ・ツル等があげられます

ブルームモデル

大気の拡散予測式の一つで、移送・拡散の現象を煙流（ブルーム）で表現します。計算が比較的容易で、長期平均濃度の推定に適しており、濃度の空間分布を求めるのに適しています。

粉じん（ふんじん）

一般に気体中に浮遊している微細な固体の粒子状物質の総称で、ダストともいいます。呼吸により吸引される微粒子は吸入性粉じん、または呼吸可能粒子といえます。

【へ】

ペイトラップ

口が地表面に揃うように餌（糖蜜等）を入れたプラスチックコップを埋設し、餌に引き寄せられて落ち込んだ昆虫類を採集する方法です。

ヘキサダイアグラム

地下水の溶存成分（溶存イオン）のバランスを可視化するために、水平の3本の軸と1本の垂直軸を設けて、水平軸の左右にそれぞれ陽イオン・陰イオンの濃度をプロットして、各点を結んだ六角形で表示したものです。

ベンゼン

常温で無色透明の、水より軽く引火性の高い液体です。

かつては典型的な有機溶剤として使用されましたが、他の溶剤によって代替され、現在はもっぱら工業用原料として使用されています。ガソリン中にもわずかに含まれています。

大気、水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

【ほ】

ほう素（ほうそ）(B)

ほう素は単独で使われることは少なく、ガラスや陶磁器用釉薬の原料、防腐剤、医薬品等に、ほう砂やほう酸のような化合物のかたちで利用されています。

水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

ボーリングコア

ボーリング調査によって採取された円柱形の土壤試料のことです。

ボーリング調査（ぼーりんぐちょうさ）

特殊な機械を用いて地中に孔を掘り、地質の状況を確認する地質調査の一種です。

ポリ塩化ビフェニル（ぼりえんかびふえにる）(PCB)

PCBとも略称されます。化学的に安定で絶縁性・耐熱性があり、絶縁油、熱媒体、ノンカーボン紙、シーリング材等に幅広く使用されてきました。

現在もコンデンサ等の電気機器等には、一部、PCBが使用されているものがあります。

水質、地下水、土壤に係る環境基準では「検出されないこと」とされています。

【ま】

μg（マイクログラム）

μは単位の一つで100万分の1を示し、1 μgは、100万分の1グラムです。

μm（マイクロメートル）

μは単位の一つで100万分の1を示し、1 μmは、100万分の1m（1000分の1mm）です。

マサ（まさ）

真砂と表記することもあります。花崗岩が風化してできた、比較的粒子の粗い土砂です。

マルチング材（まるちんぐざい）

地表面の飛散防止、雑草の生育抑制、保温、保湿による植物生育の促進のために地表面を覆う材料のことです。

マンガン（Mn）

灰白色ないし銀色のもろい金属で、乾電池、肥料、写真材料、花火等に使用されます。

【み】

mg(ミリグラム)

ミリは単位の一つで1千分の1を示し、1mgは1千分の1グラムです。

【む】

【め】

メタン

天然ガスの主成分であり、また、有機物が嫌気状態で腐敗、発酵するときに生じます。有機性の廃棄物や、沼沢の底、家畜の糞尿、下水汚泥の嫌気性分解過程等から発生します。二酸化炭素の約2.1倍の温室効果を示す、温室効果ガスの一つです。

【も】

猛禽類(もうきんるい)

ワシ、タカ類の総称のことをいいます。

木質バイオマス(もくしつばいおます)

バイオマスとは、再生可能な、生物由来の有機性資源(化石燃料は除く)のことです。そのなかで、木材からなるバイオマスのことを木質バイオマスと呼びます。化石燃料の代替としての自然エネルギーの一つとして注目されています。

モニタリング

環境監視のことをいいます。事業実施後、その事業が大気質や水質等の環境要素に影響を及ぼしていないかどうか、定期的な調査あるいは自動観測器を用いた調査により監視することです。

【や】

【ゆ】

【よ】

溶解性鉄(ようかいせいてつ)

水中に溶存している鉄のことをいいます。

溶解性マンガン(ようかいせいまんがん)

水中に溶存しているマンガンのことをいいます。

溶出試験(ようしゅつしけん)

ある物体やものに含まれている物質が、ある条件を与えた場合に、溶け出す量を分析する試験のことをいいます。

溶存酸素量(ようぞんさんそりょう)(DO)

水中に溶けている酸素の量を示します。溶存酸素量は、きれいな水ほど酸素は多く含まれ、汚染度の高い水中では、消費される酸素の量が多いため少なくなります。

溶融スラグ(ようゆうすらぐ)

焼却灰等の廃棄物を燃焼熱や電気から得られた熱エネルギー等により超高温(1,200以上)下で加熱、燃焼させ、無機物を溶融した後に冷却したガラス質の固化物です。

【ら】

ライトトラップ

夜間に灯火に集まる昆虫類の習性を利用し、光で昆虫を寄せ集め、採取する方法のことをいいます。

落葉広葉樹(らくようこうようじゅ)

カエデ・ブナ・ナラ等、夏には葉をつけ、冬には落葉する、広い葉をもつ樹木のことです。

【り】

リニアメント

空中写真等で地表に認められる、直線的な地形の特長(線状模様)のことをいいます。崖、尾根の傾斜急変部、谷や尾根の屈曲による直線的な地形、土壌や植生の境目等が直線的に現れる部分がこれにあたります。

リニアメントの成因としては、侵食、堆積等のほか断層や節理等地下の地質構造が反映されたものがあります。

硫化物(りゅうかぶつ)

硫黄化合物のうち、硫化水素(H-S-H)のHを他の原子に置換した構造を持つ化合物です。

硫化物は溶存酸素の少ない状態で生成されやすいので、底質中の硫化物の量は、汚濁の指標の一つとなります。

流出係数(りゅうしゅつけいすう)

流域内に降った雨量のうち、河川へ流出する割合を表す係数です。

留鳥(りゅうちょう)

季節による移動をせず、一年じゅう同一地域にすむ鳥。例としてスズメ・カラス・キジバト等があげられます。

粒度組成(りゅうどそせい)

底質を構成する土粒子径の分布状態を全体に対する百分率で表したもので、土粒子径により、礫、粗砂、細砂、シルト、粘土等にクラス分けします。

【る】

ルートセンサス

あらかじめ設定した調査ルートに沿って、周辺を観察・調査する方法のことです。

【れ】

礫(れき)

一般的に、砂よりも粒が大きい(粒の直径が2mm以上)ものことで、小石、石粒等のことをいいます。

レッドデータブック

国際自然保護連合(IUCN)が世界各国の専門家の協力によって作成した絶滅のおそれのある種のリストや、生態、圧迫要因等を取りまとめたデータ集です。日本においても環境省が専門家の協力を得て、「日本の絶滅のおそれのある野生生物(日本版レッドデータブック)」が作られています。

【ろ】

六価クロム(ろっかくるむ)(Cr⁶⁺)

クロムは銀白色の硬い金属で、クロムめっきやステンレス鋼の材料等として、広く使用されています。クロムめっきやステンレス鋼中のクロムのような金属クロムと、三価のクロム化合物はほとんど無害ですが、六価のクロム化合物は毒性が強いため、有害物質として厳しく規制されています。

水質、地下水、土壤に係る環境基準が定められています。

【わ】

【A】

As 砒素(ひそ)

【B】

B ほう素(ほうそ)

BOD 生物化学的酸素要求量(せいぶつかがくてきさんそようきゅうりょう)

【C】

Cal_m 静穏(せいおん)

Cd カドミウム

CO 一酸化炭素(いっさんかたんそ)

CO₂ 二酸化炭素(にさんかたんそ)

COD 化学的酸素要求量(かがくてきさんそようきゅうりょう)

Cr⁶⁺ 六価クロム(ろっかくるむ)

【D】

DO 溶存酸素量(ようぞんさんそりょう)

【E】

| | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 【 F 】 | |
| F | ふっ素（ふっそ） |
| 【 G 】 | |
| 【 H 】 | |
| 【 I 】 | |
| 【 J 】 | |
| JIS | 日本工業規格（にほんこうぎょうきかく） |
| 【 K 】 | |
| 【 L 】 | |
| L ₁₀ | 振動レベルの80%レンジの上端値（しんどうれべるの80%れんじのじょうた |
| んち） | |
| Laeq | 等価騒音レベル（とうかそうおんれべる） |
| LED | エル・イー・ディー |
| 【 M 】 | |
| mg | ミリグラム |
| Mn | マンガン |
| 【 N 】 | |
| N | 規定度（きていど） |
| N ₂ O | 一酸化二窒素（いっさんかにちっそ） |
| NO ₂ | 二酸化窒素（にさんかちっそ） |
| NO _x | 窒素酸化物（ちっそさんかぶつ） |
| NaOH | 水酸化ナトリウム（すいさんかなとりうむ） |
| ng | ナノグラム |
| 【 O 】 | |
| OX | 光化学オキシダント（こうかがくおキシだんと） |
| 【 P 】 | |
| Pb | 鉛（なまり） |
| PCB | ポリ塩化ビフェニル（ぼりえんかびふえにる） |
| pg | ピコグラム |
| pH | 水素イオン濃度（すいそいおんのうど） |
| PM _{2.5} | 微小粒子状物質（びしょうりゅうしじょうぶっしつ） |
| ppm | ピーピーエム |
| 【 Q 】 | |
| 【 R 】 | |
| R-Hg | アルキル水銀（あるきるすいぎん） |
| 【 S 】 | |
| Se | セレン |
| SS | 浮遊物質（ふゆうぶっしつ） |
| SPM | 浮遊粒子状物質（ふゆうりゅうしじょうぶっしつ） |
| SO ₂ | 二酸化硫黄（にさんかいおう） |
| SO _x | 硫黄酸化物（いおうさんかぶつ） |
| 【 T 】 | |
| T-CN | 全シアン（ぜんしあん） |
| T-Hg | 全水銀（ぜんすいぎん） |
| TEQ | 毒性等量（どくせいとうりょう） |
| 【 U 】 | |
| 【 V 】 | |
| VOC | 揮発性有機化合物（きはつせいゆうきかごうぶつ） |
| 【 W 】 | |

【X】

【Y】

【Z】

【μ】

μg

μm

マイクログラム

マイクロメートル